

4. 計画・準備作業

4.1. 使用機器

本作業で使用する計測機器等の機能は、以下のとおりとする。

(1) 地理情報システム (GIS)

ベクトルデータ入力、ラスター幾何補正、図法変換、属性付与を行える地理情報システム（以下「GIS」）及びそれを円滑に操作できるコンピュータ。

さらに国土地理院の地理院タイルを画面上で表示できるものであること。

(2) スキャナ

分解能：0.1mm以内

読取精度：2点間の誤差が0.25%以内

カラー分解能：24bit カラーで読み取り可能なこと

読取範囲：参照資料の図郭範囲の読み取りが可能なこと

(3) 画像編集ソフトウェア

PDF形式の平面図等の地図データをGISで扱えるデータ形式に変換できるソフトウェア。

切り出し機能があれば、画像内の不要な範囲が削除できるのでなおよい。

4.2. 作業計画

GISデータ作成・更新に必要な資料をベクトルデータ入力、ラスター幾何補正、図法変換、属性付与を行える地理情報システム（以下「GIS」）は、及びそれを円滑に操作できるコンピュータとする。

4.3. 使用資料

本作業において原典資料及び参考資料として使用する資料は表4-1のとおりである。

ただし、発注者が「令和3年度全国環境情報等整備委託業務で作成された成果品（環境省発注）」と同等またはそれ以上のデータを有している場合は、当該データを使用しても可。

表 4-1 原典資料一覧

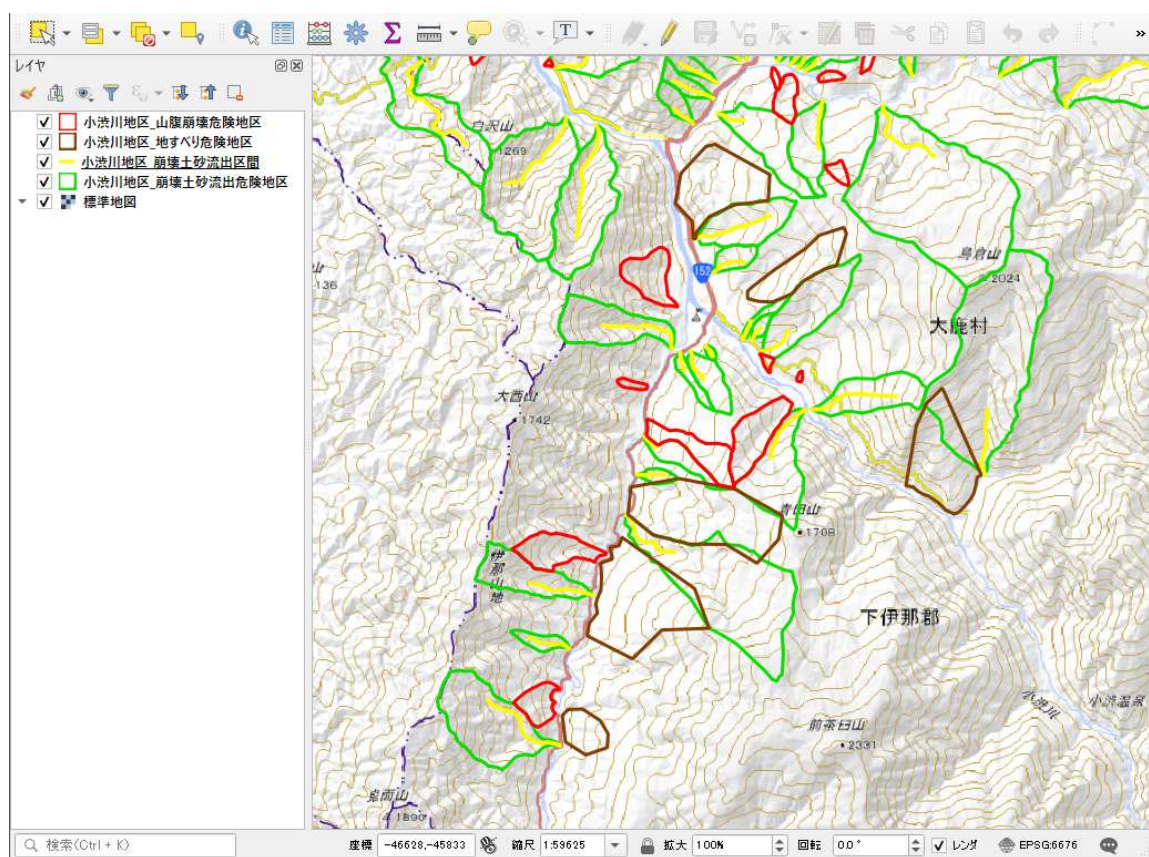
No.	資料名	収集方法	備考
1	山地災害危険地区 GIS データ	貸与	図形、属性の原典資料
2	山地災害危険地区の情報が記載された資料（帳簿）	貸与	属性の原典資料 調査表、一覧表 等

No.	資料名	収集方法	備考
3	山地災害危険地区の位置が記載された資料（図面）	貸与	図形、属性の原典資料 平面図、位置図、調査図 等
4	令和3年度全国環境情報等整備委託業務で作成された成果品（環境省発注）	貸与	各森林管理局提供の原典資料を用いて作成された山地災害危険地区GISデータ
5	国有林数値基本図データ	貸与	参考資料
6	地理院タイル	GIS上に直接表示	参考資料

(1) 山地災害危険地区 GIS データ

山地災害危険地区の GIS データである。

データ仕様に規定がないため複数種存在する。



小波瀬地区_山腹崩壊危険地区 :: 地物数 合計: 19、フィルタ: 19、選択: 0									
危険地区番	調査地区面	危険地区面	保安林等の	他の法令等	荒廃状況	治山事業進	山腹崩壊危	被災危険度	危険地区の
1 山417-1003	36	36	土砂流出防備	-	有	概成	a1	a2	A
2 山417-1004	51	45	土砂流出防備	-	有	一部概成	a1	b2	A
3 山417-1005	4	4	土砂流出防備	-	有	概成	a1	c2	B
4 山417-1006	3	3	土砂流出防備	-	有	概成	a1	a2	A
5 山417-1007	17	17	土砂流出防備	-	有	概成	a1	c2	B

図 4-1 GISデータの例

帳簿の形式は規定がないため複数種存在する。記載内容は山地災害危険地区の種類、箇所番号、地区名等である。

[illegible]

図 4-2 帳簿の例